

| | |
|---------------|--|
| 氏 名 | やまもと いわこ 山本 以和子 |
| 学位(専攻分野) | 博 士 (学 術) |
| 学 位 記 番 号 | 博 乙 第 203 号 |
| 学 位 授 与 の 日 付 | 平成 28 年 3 月 25 日 |
| 学 位 授 与 の 要 件 | 学位規則第 4 条第 2 項該当 |
| 学 位 論 文 題 目 | 入学者選抜とレディネス開発の連携による高大トランジション達成に関する研究 |
| 審 査 委 員 | (主査)教授 森本一成 教授 澤田美恵子 教授 森迫清貴 教授 播磨 弘 追手門学院大学基盤教育機構教授兼学長補佐 池田輝政 |

論文内容の要旨

高大接続の概念は 2000 年頃から一般的に普及し、AO入試と接続教育（入学前教育・初年次教育）の 2 つの取り組みが発生し急速に拡大してきた。2014 年の中教審の答申では、高校教育・大学入学者選抜・大学教育の三位一体改革が掲げられ入試改革が進められてきたが、高大移行は達成できない状況にある。日本の大学入試および接続教育では今も「高大接続」という言葉を利用しているが、その概念の定義が多様であることから高大移行を達成できない理由の一つであると考えられている。高大接続 (Articulation) は元来「接ぐ」の意味であり、高校教育と大学教育は「異質」であるという前提でその言葉が使われている。接いだ後の新しいステージで成果の出ることが期待されたがそうはならなかった。そして今も、瞬間的な「接ぐ」に固執し、入試と断絶された中での接続教育で「接ごう」としている。これでは新しいステージへの移行が達成できないと申請者は指摘している。高大移行 (Transition) は元来「転移」「変化」を表す。申請論文は、高大トランジションこそが高大接続の完了形であるという考えに基づき議論を展開している。まず、高大トランジションの構造を提示し、その構造の中にある「ふるう」「つなぐ」「変える」の各段階に着目し、そこに学びの接続と大学進学レディネス（構え）の形成の視点を提示すること、次に、両視点より現在のダビンチ入試と入学前教育が高大トランジション達成段階のどこにあるかの検証を通して、高大トランジション達成のための未解決課題の提示と再設計の方向性を示すことを目的としている。

第 1 章では、本研究のテーマの背景と先行研究から、高大トランジションの概念の整理を行っている。そのためには、高大接続の要素である入学者選抜と大学進学レディネス開発にあたる初年次教育に着目している。前者では入学者選抜システムのみで高大移行の達成状況を論じることが多いことを指摘している。後者に関しては、海外の先行研究より取り入れた初年次教育の概念研究を取り上げ、日本の場合には学士課程導入前の補充コースとしての立場が定着し、移行措置の認識がないことを指摘している。

第 2 章では、ダビンチ入試の検証と再設計を行う前に、現在の入試ではなぜ高大トランジションができなかったかの検証を目的として、進学適性検査から大学入試センター試験までの一般入試の機能の変容を分析している。その結果、①当初は大学入試に教科学力・適性検査並存の大学

進学基準があったが、後に教科学力による能力主義が台頭し、それが定着したこと、②その後、高校教育と高校生の変容により大学進学レディネスが欠如した学生を受け入れる事態が現れ、従来の教科学力だけに頼る能力主義型テストが崩壊したことを明らかにしている。さらに、それが高大トランジションのステップの「ふるう」から「つなぐ」への気づきとなったことを述べている。

第3章では、まずAO入試の出現の要因は高等学校・高校生の変容と当時の海外比較研究からの知見によることを明らかにしている。次にAO入試の実施状況の分析により、第2章で提示した課題解決の状況を検証している。その結果、多面的判定や受験複数化等が課題を解決しており、AO入試が高大トランジション構造の「つなぐ」に位置すると論じている。さらに、導入後のAO入試実施再考の動きや合格者の学力調査の結果等を用いて、AO入試の課題について分析している。その結果、学力遂行能力の判定が未開発であること、AO入試合格者の高校での学習成果が未到達であること、大学の経営事情による無試験化や合格から入学期間までの教育的放置状態が存在すること、選抜基準に曖昧性のあること、並びに受験スケジュールに問題のあることを明らかにしている。

第4章では、ダビンチ入試と入学前教育は現在のAO入試の課題を解決のしているのかについて、取得データを用いて分析している。その結果、ダビンチ入試は現在のAO入試の課題を解決していること、また、ダビンチ入試の学生はダビンチ入試に教育的機能があることを認識しており、合格者の教科学力水準も上昇していること、さらに、一般入試の学生と同様の学習成果を示し、学習目的・意欲が高いなどを明らかにしている。一方、入学前教育については、合格以降の学習プランニング、大学生活の不安解消、苦手単元の克服、ならびに学習姿勢の維持・向上に効果のあることを明らかにしている。加えて、入学前教育のレポート提出率と入学後の学習成果の間には相関関係が認められたことより、入学前教育の継続かつ安定的な参加姿勢が入学後の成績を左右するという指摘をしている。以上からダビンチ入試は、高大トランジション構造段階では「つなぐ」と「変える」に位置すると論じている。

第5章では、ダビンチ入試の未解決課題を考察するため、韓国のAO入試をベンチマークしている。その結果、韓国AO入試の評価基準・学力最低基準の設置、高校教育へのリスペクト、ポートフォリオ評価の導入ならびに合否判定者の能力開発に関する知見を明らかにしている。さらに、ダビンチ入試の高大トランジションの現状を探るために、本学の新入生の進学レディネス状況を新入生へのアンケート調査で分析し、「基礎的学習スキル」「学習歴」「学習態度・姿勢」「認知的技能」について入試類型別の違いを明らかにしている。これらより、ダビンチ入試と入学前教育を高大トランジション達成に導くためには、判定に利用する情報と判定方法のさらなる高度化が求められ、入試類型と高大移行教育の連携、入学前教育のリメディアル教育からの脱皮、入試と高大移行教育のための組織作りの必要性を論じている。最後に、アドミッション・ポリシーと新しいダビンチ入試と高大移行教育のコンセプトを提示して、AO入試の課題解決のための指向性を提示している。

第6章では、本申請論文で明らかにしたことをまとめている。最後に、本論文が入試内容・方法・評価項目の高度化への研究、教育接続にかかる教育内容・方法の研究、および多面的・総合的判定担当者の育成と能力開発に関する研究につながる可能性について論じている。

論文審査の結果の要旨

本論文は、受動的な学習意欲・態度の不本意入学者に悩まされた状況を解決するために導入されたダビンチ（AO）入試の追跡研究である。これまで高大接続にかかる入学者の追跡研究は、選抜方法や評価基準の多様化という文脈の中で、多様化する受験学力の入試成績と入学後の学業成績の違いを追跡し、多種多様な選抜方法の妥当性を検証することにとどまってきたが、本論文ではダビンチ入試という事例の設計における仮説の検証と改善による実用性を特徴とする研究であることに新規性が認められる。さらに、この追跡研究に「進学レディネス」の概念を導入することで、ダビンチ入試に高大接続の視点を加えて新たな独自性を打ち出した点は高く評価できる。高校から大学への入学前後の学習意欲にかかるレディネスの育成と、それに伴う入学後の効果を視野に入れた新たな追跡研究の次元を切り拓いており、評価に値する。また、入学意欲・学習意欲にかかるダビンチ入試受験者の行動特性に関する注目すべき知見として、①不合格者の再チャレンジ率の高さ、②オリエンテーションや学習・生活相談会へのポジティブな態度、③入学後の取得単位数の多さ、④教員とのコミュニケーション力の高さ、⑤授業に臨む姿勢の良さ、⑥発表や資料作成への積極性、など大学の学びの楽しさを伝える興味ある能力・態度の特徴を明らかにしている。さらに、入学前から入学後に継続する学びの意欲や姿勢等の進学レディネスの重要性を入試時点で育成するという視点は、中教審「高大接続」答申の方向を先取りする取り組みでもある。この新たな高大接続の追跡研究の可能性を、仮説・検証・改善のサイクルにおいて遂行し、高校から大学へのトランジション（移行）のコンセプトでその意味づけを再構成した点にも新規性が認められる。これまでの受験勉強に動機づけられた狭い学力による弊害に対して、大・高・中・小の教育制度全体において解決するための政策がこれからいよいよ本格化するに伴い、本研究により得られた知見や課題解決のための提案手法が益々重要になると期待される。

本論文の内容は、5編のレフリー制のある学術雑誌（うち申請者を筆頭著者とするもの3編）と1編の著書の計6編を基に構成されている。なお、本論文に関連する参考著書が1編ある。

1. 山本以和子、内村浩：AO入試入学者の学習活動追跡による傾向分析、大学入試研究ジャーナル、No.21、pp. 119-123、大学入試センター、2011
2. 内村浩、山本以和子：成績閲覧システムを利用した総合的学生支援－高大教育接続の改善をめざして－、大学入試研究ジャーナル、No.22、pp. 119-125、大学入試センター、2012
3. 内村浩、山本以和子：「学びの接続」の視点からAO入試のデザインを考える－京都工芸纖維大学のダビンチ入試の場合－、大学入試研究ジャーナル、No.23、pp. 1-5、大学入試センター、2013
4. 山本以和子：韓国大学入学者選抜の変容－入学査定官制導入後の展開状況－、大学入試研究ジャーナル、No.24、pp. 105-112、大学入試センター、2014
5. 山本以和子：多面的・総合的評価入試の判定資料に関する日韓比較調査、大学入試研究ジャーナル、No.26、大学入試センター、2016（印刷中）

著書

1. 山本以和子：일본 AO 입시의 운영과 과제（日本のAO入試の運営と課題）、pp. 1-72、韓国教育開発院、2011

参考著書

1. 山本以和子、鄭慶姫：일본의 대학 컨소시엄의 전개와 시사점（日本の大学コンソーシアムの展開と示唆点）、世界教育政策インフォメーション2010、第6号、pp. 3-32、韓国教育開発院、2010